

整備事業者の方へ

適切な点検/修理にご協力をお願いいたします

プロペラシャフトにとって非常に厳しい使用条件(例: 定量積載量を超える積載状態での走行など)や長年の使用による劣化などにより、プロペラシャフトのユニバーサルジョイントが破損し、脱落/火災に至った事例が報告されています。安全にご使用頂くために、プロペラシャフト、及びエンジン(ミッション)・マウントの点検方法についてご連絡させていただきます。

車検時や定期点検時の確実な点検/修理の実施を今一度、お願いいたします。

① プロペラシャフト点検時のお願い

ダイヤルゲージを使ってプロペラシャフトのユニバーサルジョイントの「ガタ」点検をお願いします。

■ 準備する道具

・マグネットスタンド ・ダイヤルゲージ

■ ガタ点検手順及び注意事項

下記手順で、点検をお願いします。

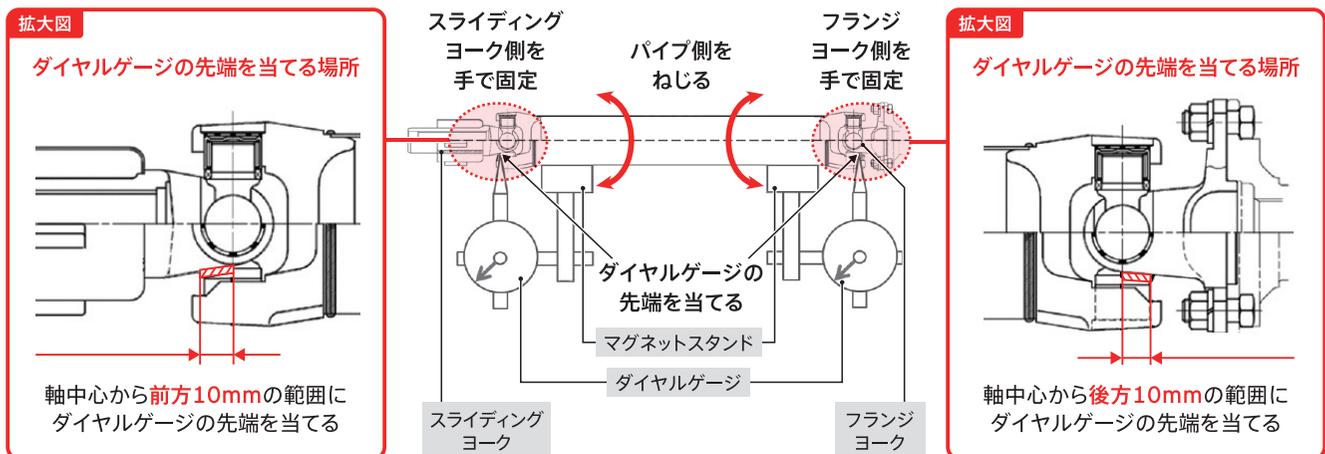
- (1) ダイヤルゲージをセットしたマグネットスタンドをプロペラシャフトのパイプ側前寄り部分に固定する。
- (2) ダイヤルゲージの先端がスライディングヨークの側面に直角に当たるように調整する。
- (3) スライディングヨーク側を手で固定し、プロペラシャフトのパイプ部分を手でねじって、ガタ量を計測する。

※プロペラシャフトに回転方向以外の力を加えたり、手で保持して固定しているスライディングヨーク(もしくはフランジヨーク)が回転方向に動いた場合、ダイヤルゲージの読み値が実際のガタよりも大きくなってしまいます。このため、点検作業に当たっては以下の2点を遵守ください。

- ① プロペラシャフトには回転方向以外の力を加えない。
- ② ガタ計測時に手で保持するスライディングヨーク(もしくはフランジヨーク)は回転方向に動かないよう固定する。

- (4) ガタ量が 0.20mm 以上の場合は、プロペラシャフトを新品に交換する。
- (5) フランジヨーク側についてもスライディングヨーク側と同様の点検を実施する。

ダイヤルゲージを使ったジョイント部ガタ点検



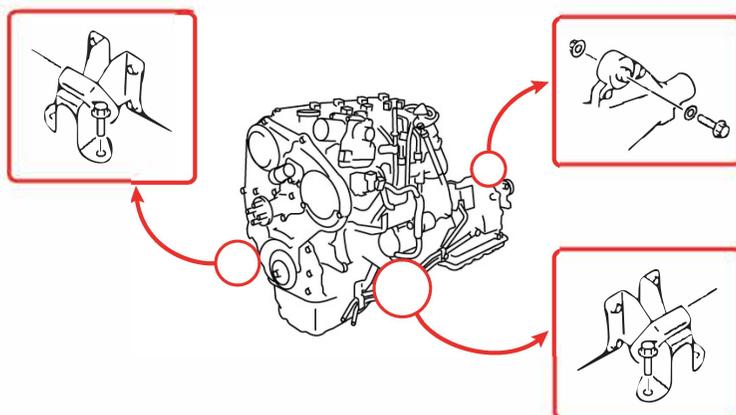
裏面もご覧ください

② エンジン(ミッション)・マウント点検時のお願い

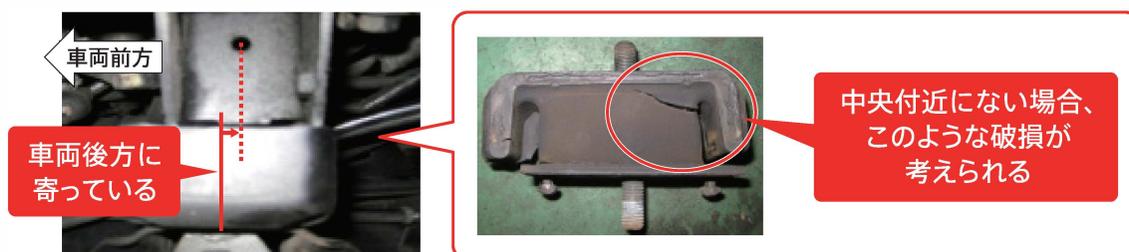
下記手順で、点検をお願いします。

- (1) エンジン・マウントおよびミッション・マウントのラバー部の亀裂やへたりの有無を点検する。
- (2) 亀裂やへたりが認められる場合は、マウントを交換する。

※マウントのラバー部に亀裂やへたりが発生すると、プロペラシャフトのユニバーサルジョイントに過大な負荷がかかり、破損の原因となります。



エンジン・マウントが中央付近にあるか点検



車両前方

車両後方に寄っている

中央付近にない場合、このような破損が考えられる

<<備考>>

プロペラシャフトには給脂タイプと無給脂タイプがあります。
給脂タイプについては、ユニバーサルジョイント部に給脂口(グリースニップル)があり、メンテナンスノートに記載している点検整備項目に従い、走行距離20km毎、あるいは1年毎のどちらか早い方でプロペラシャフトグリースを注入することも忘れずに実施するようにお願いいたします。

※プロペラシャフト指定油脂：汎用グリース、汎用HGグリース(リチウム系)
グリース給脂後、あふれたグリースは必ず拭き取ってください。

確実な点検/修理にご協力をお願いいたします。